さいたま市長４月定例記者会見

平成２２年４月２２日（木曜日）

午後１時３０分開会

○　進　　行　　それでは、記者クラブの皆様、定刻となりましたので、市長の定例記者会見を始めさせていただきます。

幹事社の共同通信さん、進行のほうよろしくお願いします。

○　共同通信　　４月の幹事社の共同通信です。よろしくお願いします。

それでは、発表等あればよろしくお願いします。

○　市　　長　　皆さん、こんにちは。それでは、定例記者会見を始めさせていただきたいと思います。本日の議題は３件でございます。

それでは、議題１「さいたま市シルバー元気応援ショップ制度の開始及び協賛店の募集」についてご説明をいたします。

さいたま市シルバー元気応援ショップは、高齢者の生活支援や社会参加の促進、地域経済の活性化を目的として、本年９月より実施を予定しております新規事業でございます。今回は、この応援ショップ制度と、制度にご賛同いただきます店舗､施設などの募集についてお知らせをいたします。

まず、応援ショップ制度の概要についてご説明をいたします。概要図の中央にシルバーカードというものがございますけれども、本市では約２３万人の６５歳以上の高齢の方に､このカードを交付いたしております。高齢者が、このシルバーカードを協賛店の店頭でご提示いただくことによりまして、その協賛店から割引等のサービスを受けることができるという仕組みでございます。

サービスの例としましては、高齢者の生活支援という観点からは、一定金額以上の買い物をした場合には、例えば半径２キロぐらいまで配達を無料にするですとか、あるいは割引をするですとか、あるいは高齢者の社会参加という視点からは、スポーツクラブやパソコン教室などの入会金の免除などといったことが挙げられるのではないかと思っております。

協賛店となるためには、市に申し込みをしていただきまして、審査を経た後、登録ということになります。登録後、協賛店には協賛ステッカー、協賛ポスターを配付し、店頭に掲示をしていただきます。

なお、協賛店の情報につきましては、市のホームページや専用の案内冊子に掲載される予定になっております。

協賛店のメリットといたしましては、高齢者に優しい店舗ということでイメージアップをすること、また協賛店の情報が市のホームページや、あるいは案内冊子に掲載するため、広く、多くの市民の方々に周知をされるというようなメリットがあると考えております。

協賛店の募集につきましては、５月６日から開始をいたします。申し込みに係る具体的な手続につきましては、所定の申込書にサービス内容や店舗の情報等をご記入いただきまして、郵便またはファクスで高齢福祉課、または各区役所の高齢介護課あてにご送付をいただきます。受け付け後、申し込み内容について確認をさせていただきました後、登録ということになります。

この応援ショップ制度の成功のかぎは、高齢者のニーズに合うお店にどれだけ賛同いただけるかということにあると思っております。食べる、買うということはもちろんでありますが、健康あるいは学びなど、多様な応援ショップが利用できることが重要となると考えております。高齢者の健康維持や、あるいは新しい趣味の発見のため、ご応募いただける店舗、施設等には、自由な発想でサービス内容をお考えいただくよう呼びかけていきたいと思っております。

続きまして、議題２「Ｅ－ＫＩＺＵＮＡプロジェクト関連事業について」ご説明をいたします。

初めに、Ｅ－ＫＩＺＵＮＡプロジェクトシンボリックデザインが決まりましたので、お知らせをいたします。（パネルを指差し）これがこの右のほうに出ているものでございます。本市では、昨年度来、地球温暖化対策に資する電気自動車普及のための取り組みとして、Ｅ－ＫＩＺＵＮＡプロジェクトというものを進めておりますが、このたびこの取り組みのシンボルとなるロゴマークを作成いたしましたので、発表いたします。

このロゴマークは、充電セーフティネットの整備、インセンティブの付与、メリットなどの地域での啓発といった安心感、満足感、親近感を高める取り組みを本市との協働によって行っていただく企業にも、一緒に用いていただけるシンボルマークとなります。

使用例でありますが、各区での設置を予定する充電設備や、市からの補助によって導入した電気自動車、さらには補助によって整備した充電設備にも表示していただこうと考えております。

また、協定を締結している３メーカーなどの市内事業所にも、訪れた方にわかりやすい場所に表示をしていただくよう連携を図ってまいります。そのほか、電気自動車の展示会や、あるいは試乗会の資料などにも同様に表示をしていきたいと考えております。

電気自動車の普及にご協力いただける企業の皆様には、地球温暖化対策に取り組んでいることを市民や取引先などにお示しいただけますし、また市にとっては、市民や市内外の企業に対し、市が主導しております電気自動車普及のための取り組みをアピールできるといった双方のメリットがあると考えております。

デザインは、この丸い車につきましては未来あるいは夢というものを表現をしておりまして、このＫのところのこの赤いリボンは結びつきやつながり、あるいは絆といったものをイメージしております。また、この緑色のこの囲みにつきましては、自然や地球というものをシンボリックに表現したものになっております。

私は、このＥ－ＫＩＺＵＮＡプロジェクトが単にさいたま市内だけの取り組みではなく、さらに広域的、また多元的に広がっていくことを期待いたしております。２６日のサミット、そしてフォーラムを通じまして、このシンボリックデザインを広くアピールし、広域的な都市間のネットワークの象徴となり、幅広く深みのある「絆」の構築につながればと考えております。

続きまして、ステラタウンにおける電気自動車の展示、試乗会についてでございます。富士重工業株式会社と昨年１２月に締結をしましたＥ－ＫＩＺＵＮＡプロジェクト協定に基づく第１弾の取り組みといたしまして、同社と本市との共催によりますＥＶの展示を明日２３日から５月７日まで、また試乗会を５月８日、９日に北区宮原１丁目のステラタウンにて開催いたしますので、ご案内をいたします。

試乗会１回当たりの人数には限りがありますが、このような機会を今後とも各地域で実施をしていきたいと考えております。私自身も、２月にこ

のプラグイン・ステラを実際に試乗いたしましたし、また先日行われましたさくら草まつりの際にも、会場に置いてありましたＥＶの試乗をさせていただきました。大変静かで、振動が少ない、また加速がよい、排気ガスが出ないといった環境性能以外のよいところについても、実際に乗って体感をしていただきたいと思っております。

３点目は、電気自動車普及促進対策補助金についてお知らせをいたします。電気自動車の普及のネックとして、車両の価格が高いことが挙げられると思いますが、ご購入時の負担を少しでも緩和するために、導入時にその費用の一部を補助する制度を導入いたしました。

今回の制度は、対象を事業者がリチウムイオン電池を搭載した次世代ＥＶを導入した場合に限りまして、１台当たり３０万円の補助を実施することとし、まずは５件分といたしました。

また、国や県など、その他の機関が実施をします補助制度とも併用して使うことが可能となります。

なお、今回の申請状況などを踏まえまして、補助対象あるいは件数の拡充につきましては、その状況を見ながらさらに今後検討していきたいと考えております。

続きまして、議題３「Ｅ－ＫＩＺＵＮＡサミット・フォーラムｉｎさいたま」についてご説明をいたします。前回ご案内いたしました、「Ｅ－ＫＩＺＵＮＡサミット・フォーラムｉｎさいたま」についての詳細がほぼ固まりましたので、お知らせをいたします。

まず、自治体首脳によるサミットには、主な首脳として埼玉県知事上田清司氏、神奈川県知事松沢成文氏の２知事、政令指定都市では川崎市長阿部孝夫氏、浜松市長鈴木康友氏、新潟市長篠田昭氏、相模原市長加山俊夫氏、特例市からはつくば市長市原健一氏、藤沢市長海老根靖典氏にご出席をいただく予定になっております。最終的に、２県１８市、全２０自治体にお集まりをいただくこととなりました。

このサミットでは、テーマを「地域における電気自動車（ＥＶ）の普及について」として、さまざまな情報の共有と意見交換を行ってまいりたいと考えております。ＥＶの普及に向けました初の自治体首脳による会議として、ＥＶの普及に向けて参加自治体での取り組みの方向性、方針といっ

た考え方を共有し、広域的な自治体ネットワークの構築に向けた方針などをサミットの成果として取りまとめられればと考えております。

フォーラムにつきましては、企業からは三菱自動車工業、益子修代表取締役社長、住友三井オートサービス、佐藤誠代表取締役社長、パーク２４、西川光一代表取締役社長、ヤマダ電機、一宮忠男代表取締役社長をはじめ、さまざまな業態の１０社から首脳の皆様にご参加をいただくことになっております。また、官公庁からは経済産業省、国土交通省、環境省からＥＶに関連する課長の方がお越しになることになっております。

フォーラムでは、テーマを「電気自動車（ＥＶ）と低炭素社会の構築について」といたします。低炭素社会の構築に向けましたＥＶの必要性や有効性、国を挙げた連携の必要性などについて国の考え方なども示していただきながら、情報や意見交換を進め、多元的なネットワークの構築に向けて何らかの取りまとめができればと考えております。

また、関連展示といたしまして、さいたま新都心駅２階のコンコースに、日産自動車のリーフを初め、早稲田大学が製作をいたしました一人乗りＥＶの３種類の３台の車を展示をします。また、本市が３月に導入して話題になりました１０区、１０色のＥＶなど合計１７台を展示いたします。

また、ホテルブリランテ１階のエントランス前におきましては、慶應義塾大学が開発をしました８輪のＥＶ、エリーカが展示されますが、これは最高速度３７０キロメートルに達する超高性能車であります。さらに、早稲田大学が開発をしました期待の非接触充電式ＥＶバスも展示をされることになっております。

これほど多くの電気自動車を１会場でごらんいただける機会は、恐らくめったにない、あるいはもしかしたら初めてになるようなことではないかと思っております。ぜひ間近で直接見ていただきたいと思っております。

サミット・フォーラムにつきましては、会場の都合からも今回一般の方の傍聴はできませんが、当日は市のホームページで、インターネット生中継で会議の様子をご覧いただけるように配慮をいたしております。

説明は以上でございます。

○　共同通信　どうもありがとうございました。

それでは、記者クラブのほうから質問させていただきます。

まず初めにですね、幹事社のほうから１点お聞きしたいのですが、さいたま市電気自動車普及促進対策補助金なんですが、これはほかの自治体でも同様のものというのは導入された例が過去にあるんでしょうか。

○　市　　長　そうですね、横浜とか神奈川も既にやっております。

それで、今回は、国も既にそういった補助制度を持っておりますし、県もいろいろ検討されているというようなことも聞いております。太陽光発電などと同じようにですね、それらを併用して使えることで、かなり使いやすい制度になるんではないかと思っております。

申し込みの状況とか、そういったものも踏まえながら、今回ちょっと数は少なくなっておりますけれども、事業者だけでいいのか、もう少し個人にも広げていくのかというようなことも含めまして、今後さらに拡充についても状況を見ながら検討していくことにしたいと思っています。

○　共同通信　ほかに質問があればお願いします。

○　朝日新聞　その補助ですけれども、事業者だけでいいのか、個人に広げていく必要があるかというのは、今年度中に補正かなにかで検討するということでしょうか。

○　市　　長　そうですね、状況に応じてその辺も考えていきたいと思っています。

○　朝日新聞　例えば応募が結構すぐいっぱいになっちゃったりとかしたら、そういう補正で増やしていったりとかは。

○　市　　長　そうですね、そういうことも検討したいと思います。

○日本経済新聞　日本経済新聞です。

その場合は、個人向けも検討するということになるのですか。

○　市　　長　そうですね。その辺の状況によってということになると思いますが、ちょうど現状は三菱自動車さんと、あと富士重工さんの電気自動車が今後個人向けに発売をされるということになると思いますけど、さらに秋口に日産自動車さんのリーフなんかも出てまいりますので、そういった状況なども踏まえながら、個人の需要が増えてくるのではないかというような予測が立つようであれば、そういったことも含めて検討していきたいと思いますが、今のところ、ちょっとまだその辺の状況を見ていきたいと思っています。

○テレビ埼玉　済みません。補助金なんですけども、これ現段階で元値がどのくらいの

ものが、例えばこの補助金と、その国とか県の補助を使って、最安でどのくらいにまで下がるのかという数字があればお願いします。

○ 市　　長　　じゃ、細かい値段は。

○ 事務局　　今、三菱自動車さんのほうでですね、アイ・ミーブ、４００万弱が車両価格だと思うのですけども、そこで今国の換算ですと、国が１１０万ちょっと補助金が出ると思います。それで、市のほうが今回３０万ということで、それでもう２００万中間ぐらいの額になってきますので、そこで、まだ県のほうが発表されていませんけども、そちらを加えればですね、２００万前半で購入ができるというようなこととなっています。

○ 埼玉新聞　　埼玉新聞です。

この次世代ＥＶの関係なんですけども、今後ＥＶを発売していくメーカーが増えていくかと思いますが、この補助対象はＥ－ＫＩＺＵＮＡプロジェクトに賛同していないメーカーの車にも採用されていくのでしたっけ。

○ 市　　長　　先ほどちょっと条件、申し上げましたけど、今回の場合はですね、事業者がリチウムイオン電池を搭載した次世代ＥＶを導入した場合ということにさせていただいております。メーカーを限ったものではありません。

○ 埼玉新聞　　このリチウムイオン電池と限定した理由はあるのでしょうか。

○ 市　　長　　今回のは、基本的には、このＥ－ＫＩＺＵＮＡプロジェクトとの関連の中でこういった補助をつけさせていただいて、電気自動車あるいはプラグインハイブリッド車というものを想定をしているというところもありまして、これは今後そういった車を普及、促進を図っていくということもありますし、あるいは今後の日本全体の成長戦略も含めて、そういった車の普及を後押ししていこうというようなねらいもあって、そういったものにさせていただいています。

○ 共同通信　　ほかに発表に関して質問は。

○ 埼玉新聞　　シルバー元気応援ショップ制度のほうですけども、協賛店、これから募るということですが、市としては目標として何店舗ぐらいの協賛店を募りたいと考えているんでしょうか。

○ 市　　長　　一応平成２２年度につきましては６００店を目標にしておりまして、２３年、２４年にそれぞれ２００店舗ぐらいずつふやして、２４年度末までに１，０００店舗ということを目標としております。

○　埼玉新聞　　業種については、目標はあるんでしょうか。

○　市　　長　　特に業種は限られておりません。

○　ＮＨＫ　　済みません、ＮＨＫですけども、関連してですね、６００店舗というのが目標ということなのですが、例えばもう事前に店舗を回って声をかけたりだとかという動きはあるのでしょうか。

○　市　　長　　個人的にというか、商工会議所のほうにはお話もしてございますし、私も会合等で今度シルバー元気応援ショップというのをスタートするということで商店街連合会の会合ですとか、そういったところでお話はさせていただいております。これと似たような制度で、県のほうでパパママ応援ショップというようなものもやっておりますので、そういったものに加盟している店舗なども含めてですね、積極的にこのシルバー元気応援ショップの加盟店を増やしていきたいと思っています。

○　ＮＨＫ　　反応としては悪くないという感じでしょうか。

○　市　　長　　そうですね、１つには、いわゆる地域の商店街にとっても、やはり比較的高齢者の場合は移動手段の問題であったり、できれば身近なところで買い物をしたいという、こういったニーズもありますので、そういう意味では高齢者の方々が、身近な商店街で買い物をしていただくための１つのきっかけづくりにもなるんじゃないかというようなこともあって、商店街のほうでも、大方好意的に受け取っていただいていると思います。

○日本経済新聞　　お店としては、大型店も含むことになるんでしょうか。

○　市　　長　　そうですね、大型店も含まれることになると思います。

○日本経済新聞　　ショッピングセンターとか。

○　市　　長　　そうですね、そういったところも協力してくれるということであれば、基本的には、あと市内に特定もあえてせずにですね、もちろんさいたま市に在住の方が旅行されたり、あるいは他の都市に出かけるケースもありますから、そういう意味ではそういったチェーン的なところも含めてご協力いただけるところはご協力をいただいて、使い勝手がいいカードにしていきたいなと思います。これまで、この６５歳のシルバーカードについては、基本的には身分証明証的なものと、あと市がやっております老人福祉センターですかね、そこが無料で入れるという、このぐらいの特典しかございませんでしたので、これを拡充することによって、高齢者の皆さんがやは

り元気で、買い物をしたり、あるいは長生きしていただくための１つの新しい趣味、生きがいづくりになっていただければというようなねらいもあって、そういったことを拡充しようと考えております。

○日本経済新聞　あと、その申請受けて審査をするという。

○　市　　長　加盟店のほうですね。

○日本経済新聞　加盟店の、はい、審査をするとおっしゃっていましたが、審査というのはどういうところを審査するんでしょうか。

○　市　　長　基本的には、そのサービスの内容をどういうものをしてくださるのかというようなことを確認をしていくことが中心になると思いますが、詳細については所管のほうで。

○　事務局　サービスの内容の確認と、店舗の情報の確認になります。あと、市のほうで広告に掲載する何か基準の要綱があると思うんですけれども、確かその中でギャンブルだとか、そういうところは対象とならないというのがあります。以上です。

○　埼玉新聞　この協賛店ですけど、さいたま市内の店舗を対象ということでよろしいのですか。

○　市　　長　基本的にはさいたま市内のところですけれども、ただそれには限らなくて、さいたま市外でも、そのカードを提示してくれれば安くしますよという店舗が市外あるいは、例えば観光地先などでもあれば、それはご協力をいただくということにしたいと思っております。当然、特にさいたま市からよく行っている観光地とかですね、旅館などは、場合によったらそういったことに協力をしていただける可能性もありますので、そのことによって高齢者の皆さんの、生きがいだとか、楽しみだとか、そういったものにもつながっていくものであれば、積極的に受け入れていきたいと思っています。

○　埼玉新聞　逆に、さいたま市外の市でさいたま市の店舗で、この加盟店でシルバーカードを提示されて割引になるようなサービスをするということは考えてはないでしょうか。

○　市　　長　要するに、さいたま市民以外にですね。

○　埼玉新聞　ええ。

○　市　　長　そうですね、それは今のところ、私たちのほうとしては。今回はあくま

でも、高齢者の皆さんに少しでも健康で元気に生活をしていただこう、生きがいをつくっていこうという、さいたま市としての政策でありますので、そこがメーンにあって、プラス地域経済の振興というのも、もちろん目的の１つでありますが、メーンは市内に住む高齢者の方々という位置づけをしておりますので、基本的にはそういう形になると思いますが、店舗によってはさいたま市外でもいいですよということが生まれてくる可能性はあると思いますけど、私どもとしては当面そういった形で対応していくと思います。

○　朝日新聞　パパママ応援ショップと違うのは、お年寄りの中では体が不自由だったりとかですね、寝たきりだったりとかして動けない方がいらっしゃると思うのですけれども、そうすると現在の計画の中では割引などとなっていますけど、例えばポイントカードの割り増しとかも検討されているようですが、例えばソフト面の、例えばスーパーだったら無料の宅配サービスだとかですね、そういうソフト面も必要だと思うんですけど、その辺はいかがですか。

○　市　　長　先ほどもちょっとお話ししましたけど、そういった部分も、割引だけではなくてですね、高齢者向けに宅配サービスやりますよとか、あるいは今パパママ応援ショップのほうは、カルチャーセンターとか、スポーツ施設がなるかどうかわかりませんけども、そういった部分だとか、要するに高齢者の皆さんが使いやすい、あるいは使うことによってよりメリットがあるような割引サービスであったり、分野であったりということを私たちとしても、それを広げていくために、こちらからもこういったやり方もありますよというようなことは提案をしたり、お知らせをしながら、そのサービスの充実を図っていきたいなと思っています。

○日本経済新聞　済みません。さっきのサービスの内容の確認についてなんですが、例えばギャンブルですとか、あとどう考えてもその高齢者向けのサービスに当たらないという場合は、審査してバツということになる場合もあるんですか。

○　市　　長　そうですね、高齢者向けのサービスに、その辺の判断は難しいと思いますが、その辺の判断基準はきっちり９月まで少し時間がありますので、つくっていかなくちゃいけないと思っていますが、ただなるべく余りその規

制というか、いろんなところで使えるというほうがですね、公共のサービスですので、最低限の規制はするにしても、できるだけいろんなサービスを受けられるというほうがいいのではないかとは思っています。

○　**共同通信**　ほかに発表に関して質問はありませんか。

○　**読売新聞**　済みません。サミット・フォーラムの関係で、関連展示というのがいろいろおもしろそうなのがいっぱい展示されるんですけど、これはこのサミット・フォーラムの当日だけなのですかね。

○　**市　　長**　そうですね、今のところ。じゃ担当のほうから。

○　**事務局**　基本的には当日１７台コンコースに展示をするのと、それからホテル前に、先ほどのエリーカと電気バス展示をしますけども、区役所の１０台の車につきましては、前日の日曜日からですね、コンコースのほうに展示をさせていただきます。それで、月曜日、その後７台追加しまして１７台を一堂に会するということになります。

○　**市　　長**　特にエリーカはね、見物だと思いますので、エリーカとバスはですね。

○　**読売新聞**　これ１日で、ウイークデーなので、一般の市民というのはなかなか見に行くに行きにくいんじゃないかと思っていますんで。

○　**市　　長**　ええ、そうですね。多少今回のサミットに合わせて特段のご配慮いただいて出していただいたというような部分もございますもんですから、かなりちょっと期間的には限定されたものになってしまいますので、その分、できたらそれぞれの各社でいろいろ広報していただく中で見ていただくように。私たちも、できるだけ市民の皆さんに、平日見られる方については、そんなこともお知らせができるようにしていきたいと思っています。

○　**共同通信**　ほかに発表に関して質問ございませんか。

それでは、記者クラブ側から１つ質問させていただきます。幹事社のほうから１つまず質問させていただきます。

国交省が、首都高速道路の走行距離別料金制とする案を発表しましたけれども、見直しの是非などについて市長のご見解をお聞かせください。

○　**市　　長**　このたびの首都高速道路の料金変更につきましては、いろんな方もお話しされていますが、これまで国土交通省とか、あるいは首都高速道路株式会社から、道路管理者であります地方自治体へ事前の説明があってきたわけですけども、今回は民主党が地域主権ということを掲げているにもかか

わらず、事前説明が一切なかったというようなことがございまして、これについてはまことに遺憾であります。

新料金制度の移行によりまして、東京圏を含めた長距離利用については、上限料金９００円となり割安となりますけれども、特に埼玉線のみの利用については、現在の４００円が距離に応じて５００円から７００円になり、値上げになります。また、ＥＴＣ非装着車につきましても上限料金の９００円を支払うことになり、さらに値上がりになります。

こうした区間の値上げについては、利用者の理解がやはり得にくいだろうと考えております。この新料金制度につきましては、政府できのうの夜の段階では見直しが検討されているというような報道がありましたけれども、また何かちょっと違う状況もあるようですけれども、いずれにしましてもですね、国民の理解がしっかり得られるように、しっかりと説明責任を果たしていただきまして、基本的には民主党のマニフェストの中では段階的に無料化ということで掲げているわけでありますから、そういった方針を持っていくとするならば、やはり値上げ区間というものがないことがやはり前提ではないかなというふうに思います。

今後は、いずれにしましても国の動向を見守りながら、埼玉県初め関係自治体などと連携を図って、利用しやすい料金体系について国土交通省あるいは首都高速道路に協議をしていきたいと考えております。

○　共同通信　ありがとうございました。

ほかに質問があればお願いします。

○　東京新聞　済みません、東京新聞ですけども、その今の関係で何か道路管理者の同意がなければ、そういう値上げとか料金変更はできないらしいんですけれども、今のプランのままだったら同意はしないと、できないんですか。

○　市　　長　なかなか理解をいただくのは難しい。今のままでは、ちょっと難しいのではないかなと感じています。

○　埼玉新聞　埼玉新聞です。

話は変わりますけれども、先日日本創新党が設立されまして、上田清司知事が記者会見に立ち会いましたが、清水市長も応援首長連合として名前を連ねておられますけれども、今後日本創新党の記者会見等で清水市長が上田知事のように会見に立ち会ったりするようなお考えはあるんでしょう

か。

○ 市　　長　　日本創新党という党の活動については、基本的にはそういった場面に携わらせていただくことは恐らくないだろうと思います。私自身は、その母体となりました、「よい国つくろう志民会議」の政治委員ということで、これまで、その政策的な部分だとか、理念的な部分だとか、そういったことにかかわってきたし、それらを実現するということについては、私たちも最大協力をすると思っておりますが、党の活動ということについて言うと、基本的には私たちは市長という立場でありますから、市民党といいますかね、特定の政党を、特に選挙が近いという中で、応援していくというのはなかなかちょっとしにくいと思っております。ただ、やはりその「よい国つくろう志民会議」のことがベースに、理念だとか、政策だとかということがつくられていますから、私たちとしては、それらが推進されることは大歓迎であるし、そういう運動が展開されるということについては大歓迎というか、そういった意味での応援はしたいと思っていますけど。

○ 埼玉新聞　　間もなく参院選挙が夏に行われまして、恐らく創新党も候補者を出してくると思うんですけども、実際に候補者の応援をするかどうかは別としましても、名前で応援するとか、個人的に推薦するとか、そういうようなことをアピールする考えはあるんでしょうか。

○ 市　　長　　そうですね、少なくとも埼玉県内の選挙区の部分についていうと、ちょっと難しいかなと思っております。全体の部分については、まだ今のところ特に考えておりません。

○ 朝日新聞　　済みません、関連してなんですけれども、上田知事もですね、同じようなスタンスだとは思うんですが、その理由として、積極的に、その党に参画できないとか、そういう理由として、やっぱり既成の政党に恩義を感じているというようなこともおっしゃっていました。清水市長も市長選で民主党の支持を受けられましたし、今の市議会の関係とかもあります。その辺はどう考えていらっしゃいます。

○ 市　　長　　これは多分参議院選挙のスタンスみたいな話と通じるかと思うんですが、基本的には告示の前については、それぞれ現職を中心に要請があり、またそれなりのご協力をいただいているところについては、出席をしたり、そういった報告という、政治活動の中では参加をするということはあり得る

と思っておりますけれども、告示後については、基本的にはそういったものには参画をしないという方針を今のところ持っております。それは、要するに日本創新党もそうですし、それ以外も含めて、基本的にはそういう方向で考えています。

○　**朝日新聞**　告示後もそういった応援活動をすると、やはり市議会とか、既成の政党との関係に影響するというふうに考えていらっしゃるんでしょうか。

○　**市　　長**　基本的には、首長という立場ではですね、やはりその党派色というのは余り極端には出すべきではないと思っております。ただ、私たち基礎自治体の長でありますから、これまで約１年弱でありますけれども、行政運営、市政運営を行っている中で、やはり地域主権でありますとか、あるいはもっと国の制度を大きく変えていただかなくてはいけない部分だとか、あるいは今回日本創新党が言っているような個人、それから地域、それから国がそれぞれやっぱり自立をしていく、自分の足でしっかりと立つという、まず意識を持つということの重要性というのは、私自身も非常に感じているところでありますので、そういう理念的な部分についての共感、共鳴をする部分もございますので、そういうことについてのお話はしていくことはあるかもしれませんけど、基本的には特定の党を、告示後という、ニュアンスでありますけれども、応援をしたりということになると、やはり市政運営がしづらくなるということもありますけども、やはり必ずしも市民の利益に合ったものにはならないんではないかというような、そんな感覚を持っておりますので、今のところは告示後については、どの党についても応援をしないという方向で今考えているということです。

○　**朝日新聞**　市政運営がしづらくなるというのは、要するに議会との関係とかも含めてということ。

○　**市　　長**　そういうことですね。

○　**時事通信**　時事通信です。きょうまた舛添さんが新党結成のことをおっしゃられていますが、新党の結成がかなり相次いでいると思うのですけども、そのことに対して市長はどのように、分権の問題とかも絡んでくるかと思いますが、政治の混乱というか。

○　**市　　長**　そうですね、やはり現状としては、なかなか自民党にしても民主党にしても、この２つの大きな政党がちょっと迷走しているというか、政策的な

ものも、運営のほうにしても、しっかりとした形がとられていないんではないか。その辺の中で不満がいっぱいたまってきたり、あるいはそれぞれ持っていた、やっぱりやや政策的な違いのある方々の部分も含めてね、ちょっとそういった部分で新しい党をつくろうという動きにつながってきているんではないかなと思いますけども。こんなにたくさん新党ができるというのは、それこそ昔の日本新党が誕生したとき以来だろうと思いますけれども、そういう意味ではやっぱり自民党に対しても民主党に対しても、やっぱりすごく閉塞感をまた持ち始めてしまったというような感じを政治家自身も今持っているんではないかなと思っています。そんなことのあらわれの一つが、今の新党結成が相次いでいるということなんではないかと思います。

○　朝日新聞　市長は、「日本の夜明け」にもナビゲーターとして参加されていますけれども、それも……

○　市　　長　「日本の夜明け」についてもですね、渡辺喜美さんともお話をさせていただいていますが、運動体の「日本の夜明け」については私もナビゲーターとして参加をさせていただいています。これは、先ほどのよい国のスタンスと全く一緒で、だけどみんなの党という党の活動には参加をしないということは、これは党ができたときにもね、前回の衆議院のときにもそういったお話をさせていただいておりますし、ただその運動の中身だとか政策的な部分については共鳴をしておりますので、そういう意味で「日本の夜明け」にも私自身は参画をしているということです。ただ、党の活動ということになると、またこれちょっと違う分野ですので、運動体と、やはり党の活動というのは、私としてはきちんと分けて考えていこうということでやらせていただいております。

○テレビ埼玉　済みません。テレビ埼玉ですけれども、ちょっと話は変わるんですけれども、盆栽美術館が１万人突破したことに関して、改めて一言お願いします。

○　市　　長　ちょうど１カ月弱ですよね、２５日ですかね、１万人を昨日突破しまして、開館日数２２日で１万１１３人ということで、１日平均４６０人の方々にご来館をいただいているということで、大変もうありがたい思いでいっぱいであります。できるだけ多くの皆さんに見ていただいて、この盆栽美

術館のよさをぜひ知っていただきたいと思っておりますし、盆栽文化、ひいてはやはり都市と自然環境との一体感というか、そういったものから生み出されている文化の一つでありますので、ぜひこの盆栽美術館に来ていただいて、さいたま市らしい文化をぜひ味わっていただきたいと思っております。

○テレビ埼玉　当初の予定よりも大分早く１万人突破ということなんですけど、その点どのようにお考えになっていますか。

○　市　　長　そうですね。やはり盆栽を愛好されている方々以外も、やはり世界で初めての公立の盆栽美術館ということで、大変注目をしていただいたということもあるでしょうし、そういう意味では時代的にもですね、やはりこういった自然環境とかエコロジーだとか、そういった部分の時代の流れにも、やっぱり合っているというような部分もあるだろうと思っています。

○　埼玉新聞　埼玉新聞です。今の盆栽美術館の件なのですけれども、幾つか課題が挙げられたと思うのですが、きょうまでに解決できたことと、あとですね、盆栽園との連携というのが課題になっていたと思うのです。ゴールデンウイーク、盆栽まつりがありますけれども、そこで何か連携するイベントとか企画があるのかをお教えください。

○　市　　長　そうですね。今まで課題と言うべきものが幾つかあったというふうに思います。それは、１つは駅からの案内ですね、案内板の問題であったり、あるいは施設内での掲示の問題であったりというようなこともあるかと思いますし、あと喫茶室を整備してほしいとか、あと写真の撮影について一応禁止のマークをつけてあるんですけれども、その辺がちょっとわかりにくくて、撮影ができる場所とできない場所がちょっとよくわからないというようなご指摘をいただいたり、あるいは展示してある場所をどこから立ち入れて、どこから立ち入れないとか、かなり基本的なものから、あと周辺の観光地との連携というような話から、短期的にやっていくべきものと中長期的にやっていくべきものと、２種類あると思っていますが、それらを踏まえて今、この間も発表させていただきましたが、プロジェクトチームをつくらせていただきまして、４月８日に第１回目の会議を開かせていただきまして、プロジェクトチームの業務の確認と今後の進め方について協議させてもらいました。

また、今度４月２２日、今日ですけれども、それを短期的にすぐ解決をしていくものと中長期に分けて、短期的にやれるものはすぐに取り組んでいこうということで、今検討させていただいているところでございます。

また、あわせて今着手しているものとしては、盆栽園ではありませんけど、鉄道博物館との連携もどうしようかということで、既に協議を始めさせていただいています。

また、ゴールデンウイーク、大盆栽まつりがございます。これは、盆栽園と連携をするというよりは、３日間で２０万人ぐらいの観光客がお見えになりますので、それぞれその方々にどう対応していくかというのが、非常に大きな課題だと思っています。美術館にもですね、恐らくこれまでで多分一番多くの方々がこの３日間に来ていただく可能性があると思っておりますので、そういったお客様をどのようにお迎えをし、どのようにスムーズに運営をしていくかということについては、このプロジェクトチームのほうで今検討を進めております。その中で、４月２９日、５月３日、あと５月４日に抹茶サービスをしようということで、市の職員のＯＢの方々を初め、お茶をやられている茶道のクラブの方とか愛好者の方々にご協力をいただいて、そういったサービスを行わせていただいたりとかいうことは、やらせていただく予定にしております。

また、盆栽園さんたちの意見も十分に取り入れさせていただきながら、今後より連携をする形でですね、この盆栽美術館を運営していこうということで、今コミュニケーションの強化も図っているところでございます。

○　産経新聞　済みません、産経新聞と申します。海外発信という問題でですね、例えば国際線の機内で宣伝をうったりですね、そろそろ多言語のパンフレットができ上がるということなんですけども、海外向けの発信手段とですね、あと特に重視する国があれば教えてください。

○　市　　長　海外向けは、今のところまだ飛行機にそういった広告を出すというところまでは考えておりませんけれども、まず大使館等にアプローチをして、こういった盆栽美術館のパンフレットをご案内をしたり、場合によったらそういった大使館員で、特にちょっと旅行とかね、経済担当の方々に盆栽美術館に見に来ていただくような試みをしていきたいとは思っています。

それから、もう一個何でしたっけ。

○　**産経新聞**　　特に重視する国。

○　**市　　長**　　重視する国。１つは、やはり中国ですね、非常に盆栽に近いものの文化があるということで、中国からも大変注目をしていただいているようなので、中国とか台湾、韓国ですね。それから、あとヨーロッパではスペインだとか、そういったところも、これまでも非常に交流というか、盆栽まつりを見に来ていただいたり、各国の首脳の方々が盆栽村を訪れたりというようなことがありますので、そういったところにもアプローチをしてやっていこうということで、今回プロジェクトチームに、東京事務所も実を言うと入っていただいてですね、東京事務所からもこういった盆栽美術館の情報発信をしていこうということで、大使館を初め旅行会社とか、そういったところにもいろんな形で働きかけていこうということで計画をしております。

○　**朝日新聞**　　大盆栽まつりのほうへ戻るんですけれども、先ほど市長がおっしゃったのは、美術館側の受け入れ態勢の話が中心だったんですが、埼玉新聞の方が聞きたかったのは、盆栽美術館が組合と協力して、その期間中に何か具体的なことを考えていらっしゃるのかという趣旨だと思うんで、その辺はどういうふうに。具体的な、特別なことをやるとかですね、そういったことはあるのでしょうか。

○　**市　　長**　　今のところは特には……盆栽園さんとの、あるいは盆栽組合さんとの何か、一緒に何かをやるということは。

○　**事務局**　　スポーツ文化部です。具体的に、組合の方々と共同して何かイベントをやるとか、そういう運びにはなっておりません。ただ、組合の方と、それから美術館が今後ともですね、協力関係を築いていいものにしていくというコミュニケーションについては、先ほども市長が申し上げましたようにコミュニケーションを図っていくということのきっかけとして、大盆栽まつりでいろんなコミュニケーションがとれればいいかなと考えております。

○　**市　　長**　　恐らく大盆栽まつりで、問題はトイレとか、かなりそういった部分が出てくるかと思うんで、そういった個々の部分は少し、大盆栽まつりに対応することとして、どういうふうに対応していくかという、細かいレベルではあると思うんですけど、イベントとか、そういった部分でいうと、今のところはそれぞれ今盆栽園さん、あるいは盆栽まつりとしても、とにかく

２０万人というたくさんの方が来て、たくさんのお店が出てきてというような状況になりますので、それらをさらに連携して何かをやるという形までは、今のところはまだいっていないという……

○　**朝日新聞**　　それは初年度だというのもあるし、そういう受け入れ態勢の充実のほうに力を入れていきたいという理解で。

○　**市　　長**　　そうですね、はい。今のところ、盆栽美術館も今まで１日最高９００人を超えるというのがありましたけど、１，０００人を超えて入場したということがまだないもんですから、そういう意味では３日間で２０万人という数が盆栽美術館周辺にいらっしゃるわけですね。そうすると、かなりの方がご来場する可能性があるんではないかと、どのぐらいかはちょっと想像つきませんけれども。そういったことをいろいろシミュレーションというか、想定をしながらですね、まずはその皆様方、来ていただいた方にきっちりとおもてなしをしていくということが、まずは盆栽美術館として大変重要なことだろうと思います。初年度ですのでね、どんな状況になっていくかというのがまだまだわからない要素が結構ありますので、現状としては、まだその連携というところまでは踏み出していないということですね。

○　**埼玉新聞**　　ちょっと気になったんですけども、大盆栽まつりの資料、原稿見せていただいたんですけれども、そこに盆栽四季の家とか書いてあるんですが、盆栽美術館については一言も触れていない。ということは、恐らく連携の話し合いは十分持たれていないんではないかとか、先ほど市長がおっしゃった２０万人が来場するのに、それに対してのＰＲする機会を失う可能性があるんじゃないかとか、そういうことをちょっとどうなのかなと思ってお伺いしたんですけれども。

○　**市　　長**　　そうですね。そういう意味では、盆栽園、組合の皆様方とも今非常にコミュニケーションをですね、なかなか十分でなかった部分もこれまでありますので、それらを含めてコミュニケーションの良好化を今図っているところでございます。

○　**朝日新聞**　　美術館の当日の受け入れ態勢というのは、何倍ぐらいに通常ふやすという話。というのも、開館セレモニーとかで、美術館側の職員も結構いっぱいいっぱいになって、そこら辺がいろいろごたごたの背景にもあると思う

のですけども。

○ 市　　長　　そうですね。具体的にどのぐらい入るかという、もう一回、今観光コンベンションビューローなんかとか、いろんな関係団体にも入ってもらって、ちょっと想定をしながら、全部一遍に入っていただくのは多分難しいかもしれないので、入る際の、順番に入って、規制ということになるのかわかりませんけれども、一遍に全部入っちゃうと、なかなか盆栽美術館のよさがわからなかったりするので、そういったことも含めてどのように運営をしていくかということは、特にこの３日間、大変重要な３日間になると思いますので、それらについては今プロジェクトチームのほうで、それらも含めて検討してもらっているということです。

○ 共同通信　　ほかに質問ございますでしょうか。

○ 埼玉新聞　　先日春の園遊会が行われまして、清水市長も参加されましたが、皇族や、あるいはほかの参加者と何か話をしたかと思いますけれども、何かもしエピソードがありましたら。

○ 市　　長　　そうですね、エピソードですか。ちょうど私は、テレビに映っていました浅田真央ちゃんたちの後ろのほうにおりましたんですけども、一部テレビでもやっていたみたいですけど、大体声がかかる方というのはやっぱり決まっていらっしゃったりするのですけど。政令指定都市の市長さんたちも、大阪、川崎、横浜、京都かな、の市長さんが来ていてお話をさせていただいたり、あるいはいろんな各省の次官の方とか国会議員の方々、随分来ておりましたので、あいさつをにさせていただいたという程度で、初めてでしたので、しかも大変寒い一日でありましたので……エピソード……とにかくもうひたすら寒かったというだけでしたね。それで、ちょうどテレビが映るあそこのところは、テレビのカメラとかの関係もあって、陛下を初め皇族の皆さんも途中まで傘を差していたのをみんなとられて、いる方もみんな傘をすぼめていましたもので、それこそ皆さんぬれながらずっと過ごしていましたので、非常に寒い園遊会になってしまったという感じでした。ただ、日ごろ活躍をされている皆さん方が、やっぱり園遊会という場に来られるというは、非常に誇りであったり、これまでやってきたことに対する自分自身の自信とかですね、あるいはそういったものにもつながるということでは、大変有意義な行事かなということは改めて思いまし

た。来ている方々、皆さんモーニングを着たり、正装されて、本当に一世一代のおしゃれというか、着ているものを着飾ってこられていますので、そういう意味では非常に厳粛な気持ちで私も。私のほうはまだ就任１年目ですからね、１年ぐらいですから、私自身本当にお邪魔をさせていただいてよかったのかどうかですけれども、ただそういういろんなことをやられている方々が来ましたので、自分自身もさらに頑張んなくちゃいけないという、そんな思いにはなりました。

○　共同通信　　よろしいでしょうか。

それでは、記者クラブ側からの質問は終わらせていただきます。

○　進　　行　　それでは、以上をもちまして定例記者会見を終了させていただきます。本日はありがとうございました。

午後２時２７分閉会